

2024年4月26日  
代表取締役社長 大野龍隆

## 23年度 決算概要

## 目次

1. 23年度 決算概要	2
2. 24年度 通期業績見通し	9
3. 今後の成長戦略と24年度の主な取り組み	17
4. 資本政策	31

為替レート (対円)	FY22 実績	FY23 実績
USDドル	135.1円	144.4円
ユーロ	141.3円	156.8円
人民元	19.7円	20.1円

## 23年度 市場の変化とその解釈

- 期中から市況回復を見立てたものの、最重要市場**中国変調**の影響大
  - 中国市場高成長の終焉
  - 品質<価格重視のミドルレンジゾーンの台頭
  - 他国の設備投資及び、工場稼働への影響
- 対応策には既に着手済みも甚大影響を**カバーする効果創出に至らず**
  - デジタルモデルシフト
  - 地域毎ビジネスモデル革新
  - 基幹システム刷新を始めとする事業基盤強化
- 斯様な**市況に最大限対峙**しつつ、**次なる飛躍に備える**厳しい1年
  - 愚直な事業推進と攻めの打ち手の仕込みを継続
  - 苦勞の甲斐あり**23.4Qでは対前年増収増益**を確保
  - 中国市場の回復期を見極めるべく大きな一手を中止(華南工場)

## 23年度 決算概要

中国を中心に、グローバルで設備投資需要減の影響により対前年減収  
売上数量減に加え、攻めの施策継続による費用増等で収益性低下

項目	FY22		FY23		
	実績	公表値 (7/28)	実績	増減率	
				対前年	対公表
売上高	373,151	377,000	367,649	▲1.5%	▲2.5%
営業利益	46,615	42,800	38,365	▲17.7%	▲10.4%
利益率	12.5%	11.4%	10.4%	▲2.1pt	▲0.9pt
経常利益	47,838	43,600	41,265	▲13.7%	▲5.4%
当期利益	34,282	30,500	28,152	▲17.9%	▲7.7%

百万円

4

## 23年度 事業別売上高・営業利益

FA : 中国の停滞影響甚大、meviy伸びでカバーできず減収減益  
金型 : 亜・欧は増収維持も他地域低調、為替効果により増収増益(円ベース)  
VONA : 為替効果や4Q回復傾向あるも需要低減をカバーできず減収減益

項目	売上高			営業利益				
	FY22 実績	FY23 実績	対前年増減率 円ベース (※)	FY22 実績		FY23 実績		対前年増減率 円ベース (※)
				利益率	利益率	利益率	利益率	
合計	373,151	367,649	▲1.5% (▲4.4%)	46,615	12.5%	38,365	10.4%	▲17.7% (▲25.3%)
FA事業	121,932	118,219	▲3.0% (▲5.9%)	21,384	17.5%	15,097	12.8%	▲29.4% (▲37.1%)
金型部品 事業	79,125	79,932	+1.0% (▲3.4%)	8,723	11.0%	9,139	11.4%	+4.8% (▲2.7%)
VONA 事業	172,093	169,497	▲1.5% (▲3.7%)	16,506	9.6%	14,128	8.3%	▲14.4% (▲21.8%)

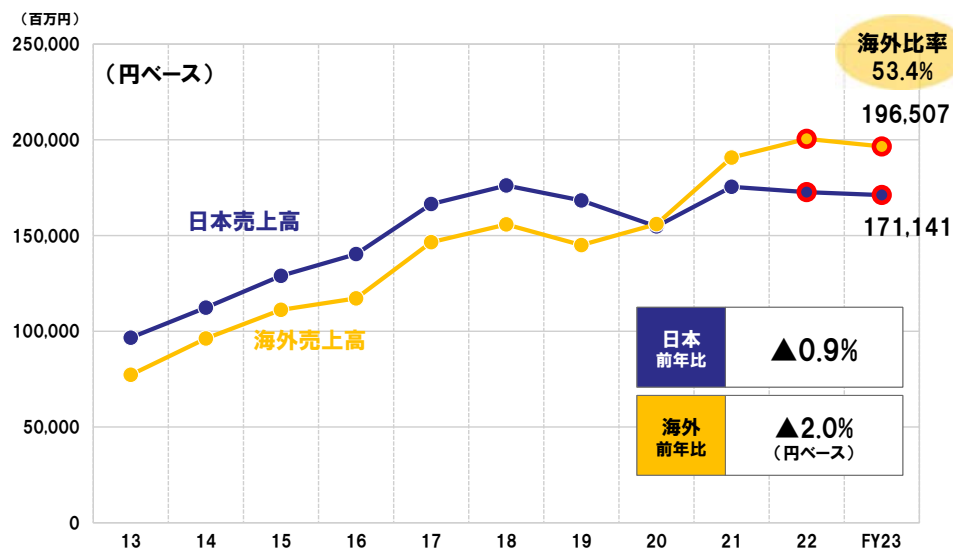
百万円

※現地通貨ベース

5

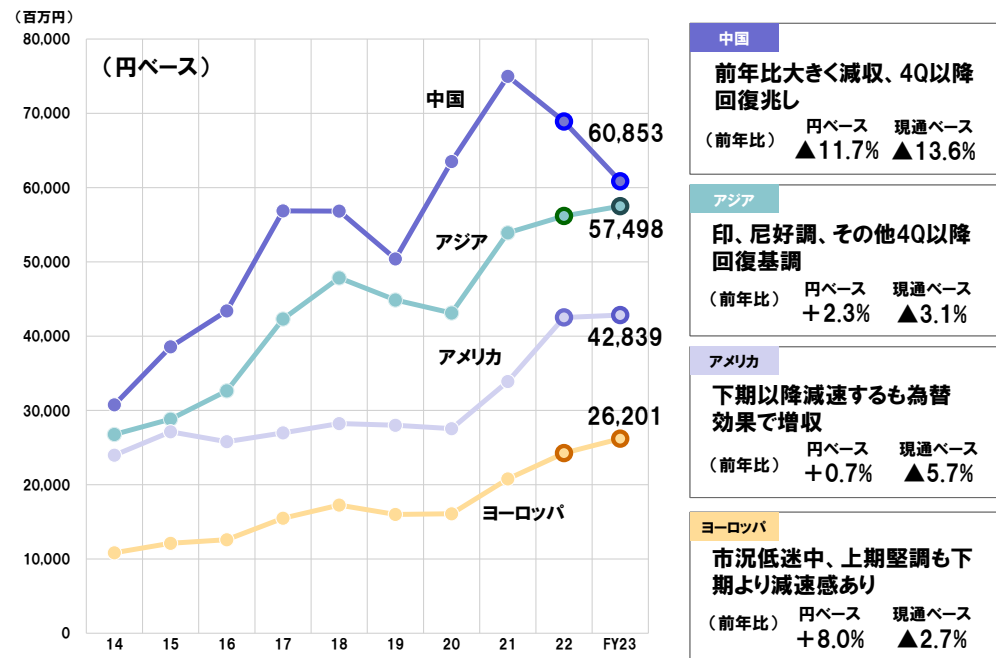
## 23年度 日本・海外売上高

日本: ほぼ前年並み、自動車関連需要は下期より緩やかに回復  
海外: 為替効果により中国以外は増収確保、4Q以降中・亜が回復基調



6

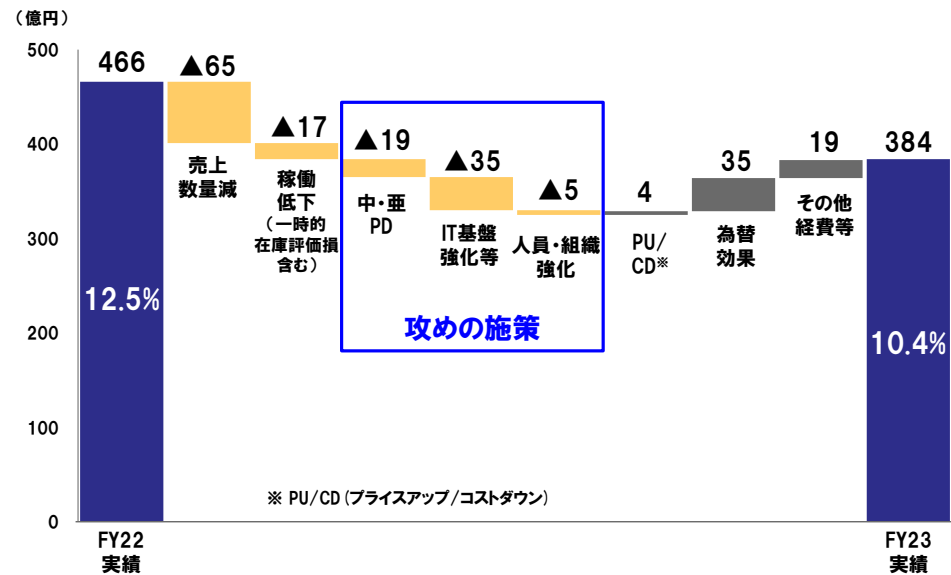
## 23年度 地域別売上高



7

## 23年度 営業利益増減分析(対前年)

需要減の厳しい環境下も、成長に向けた攻めの施策はほぼ計画通りに実行  
PU/CD・為替・経費抑制効果は数量や稼働減による収益悪化をカバーできず



## 24年度 通期業績見通し

## 24年度 市況の見立てと当社の取り組み

- **中長期的**オートメーション産業の**需要堅調**予測は変わらず
  - 社会課題の解決に向け、自動化需要はグローバルに拡大
  - FAのみならず、あらゆる産業に自動化導入が本格化
- **短期的**には市況の**不透明性は残存**も、期中からは**回復トレンド**
  - 地政学リスクや為替影響等、事業環境の不確実性が継続
  - 足元の需要動向から、上期は緩やかな回復基調に留まる
  - 下期より自動車、半導体関連等設備投資の本格回復を見込む
- 市況回復期に成長需要を確実に押さえる**勝負の年**
  - FY23迄に準備した**戦略施策**を順次発動
  - 市場実態に合わせた**地域ポートフォリオ**の改定
  - “**デジタルモデルシフト**” × “**地域毎成長戦略**”による成長加速

## 24年度 通期業績見通し

独自施策の効果、下期からの本格的な市況回復で過去最高売上を目指す  
成長に向けたIT基盤・組織の強化は継続も、数量増・PU/CD効果で増益

項目	百万円			
	FY23 実績	FY24 計画	対前年増減率	
			円ベース	現地通貨ベース
売上高	367,649	393,000	+6.9%	+7.1%
営業利益	38,365	46,000	+19.9%	+20.5%
利益率	10.4%	11.7%	+1.3pt	+1.3pt
経常利益	41,265	47,400	+14.9%	-
当期利益	28,152	34,400	+22.2%	-

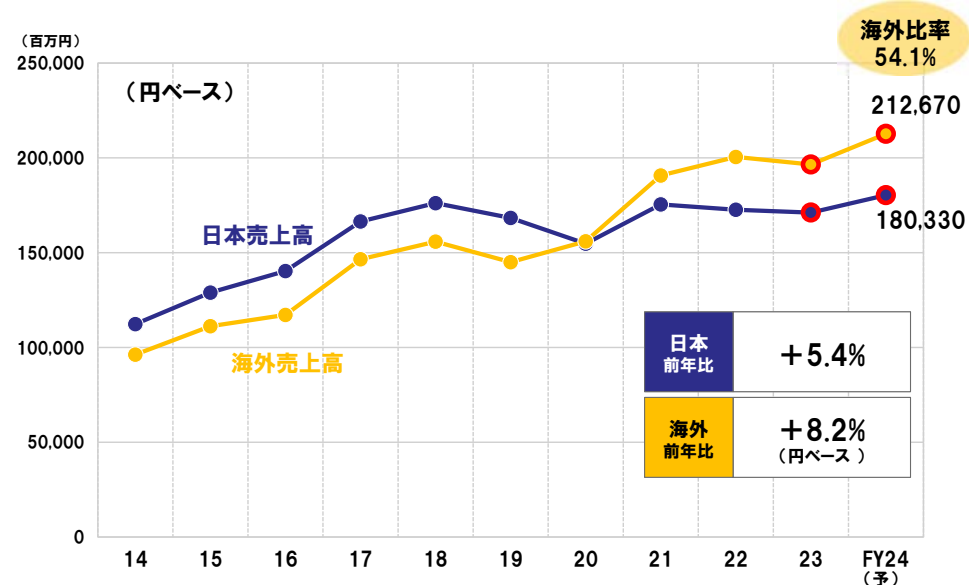
## 24年度 事業別売上高見通し

FA: 独自施策 + 多様な分野における設備投資需要の回復で高成長  
 金型・VONA: 商品・サービスの強化および市況の回復により増収を企図

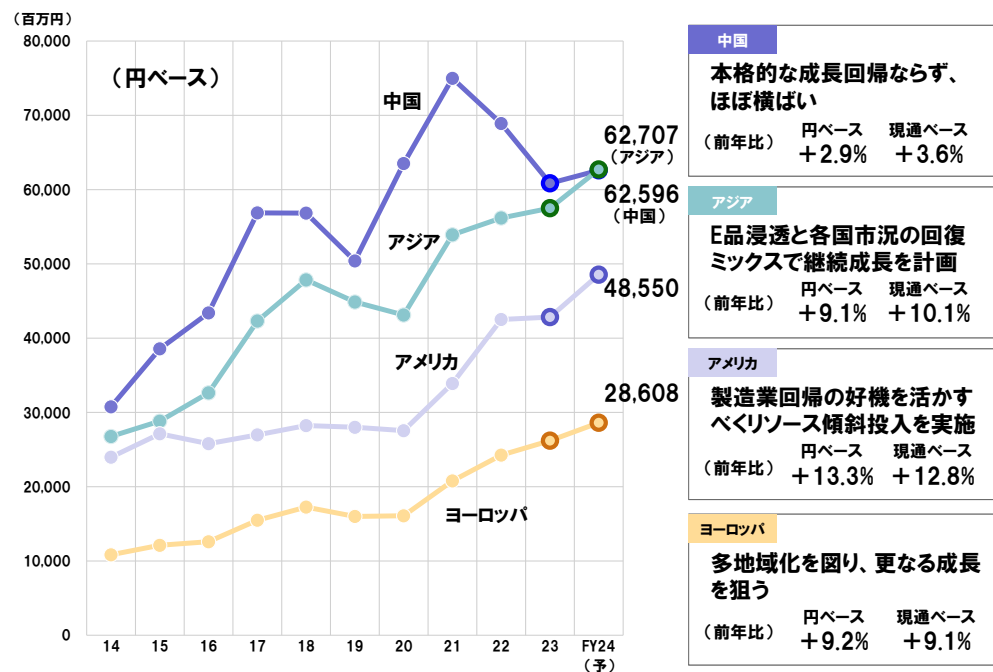
項目	FY23 実績	FY24		
		計画	対前年増減率	
			円ベース	現地通貨ベース
合計	367,649	393,000	+6.9%	+7.1%
FA事業	118,219	135,650	+14.7%	+14.9%
金型部品事業	79,932	82,228	+2.9%	+2.9%
VONA事業	169,497	175,122	+3.3%	+3.5%

## 24年度 日本・海外売上高見通し

日本: 自動車・半導体関連を中心に需要回復し、下期にかけて高成長  
 海外: 米・亜・欧を中心に更なる成長を目指すも、中国はほぼ横ばい

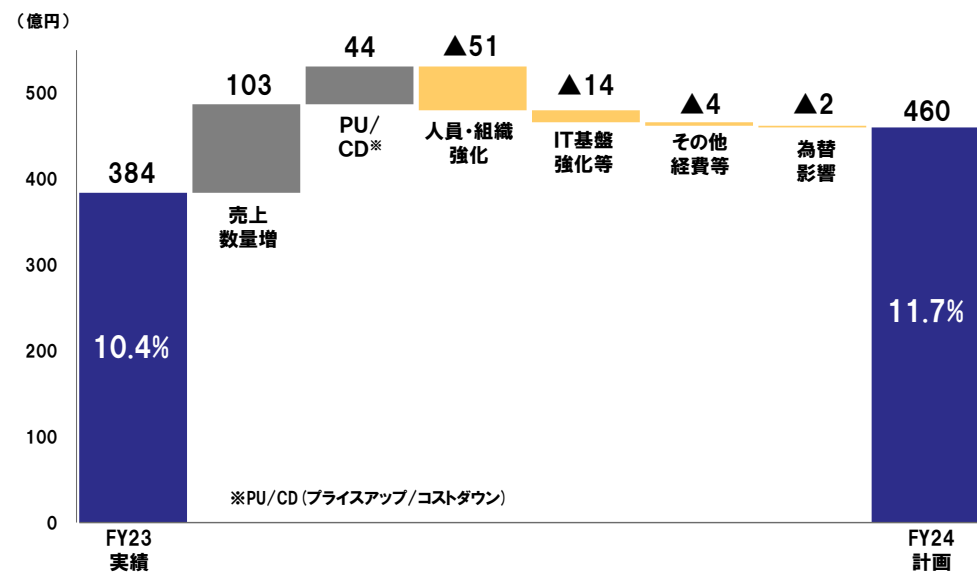


## 24年度 地域別売上高見通し



## 24年度 営業利益増減分析(対前年)

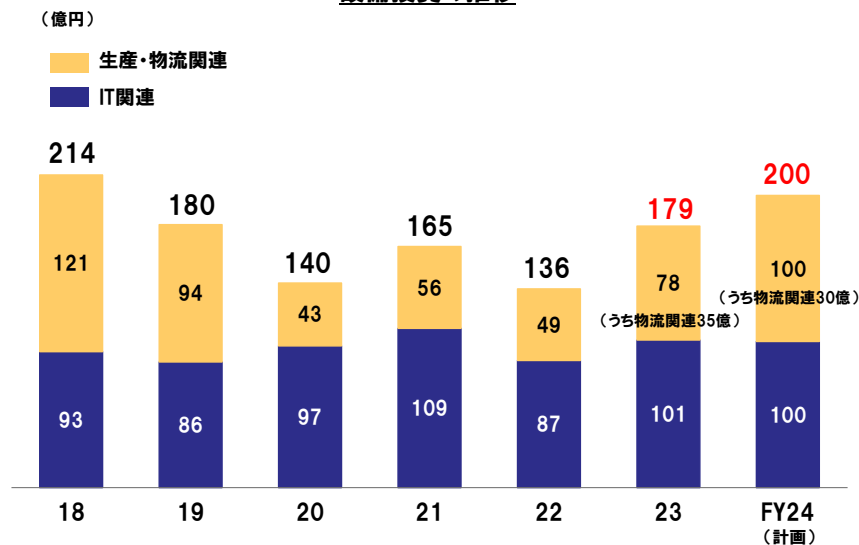
売上数量増および収益改善PU/CD効果により増益を計画  
 基幹システム刷新継続・人員組織強化(人員数・人件費)含め収益性1.3pt改善



# 設備投資

FY23:新基幹システムを最大拠点日本に導入済、今後の成長加速を期待  
 FY24:ITをはじめ事業基盤強化を継続し、グローバル確実短納期を磨き込む

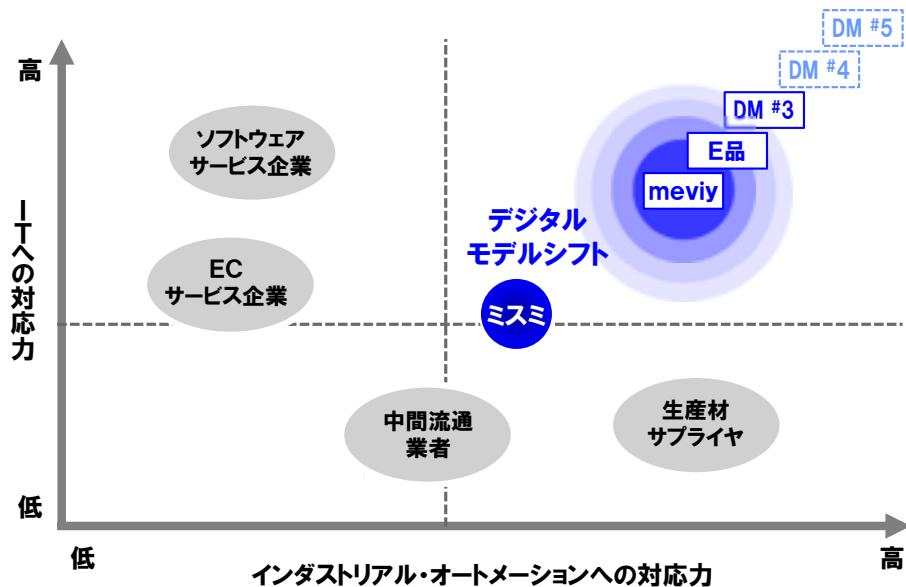
設備投資の推移



# 今後の成長戦略と24年度の主な取り組み

# ミスミのデジタルモデルシフト

多様化進む自動化顧客ニーズに対応すべく、デジタルモデルを継続開発  
 地域毎成長戦略とのシナジーにより、ユニークな競争優位性を築く



# 地域毎成長戦略

異なる市場毎ニーズ対応を企図し、市場に合致したデジタルモデル化を推進  
 地域毎に異なる競争環境に適応する各地域最適モデルを構築

	需要の中心		デジタルモデル				地域市場としての位置付け
	設備設計	工場量産	#1 meviy	#2 E品	#3 D-JIT	#4 ..	
欧	○	○	○	○	○	...	ドイツ語圏以外地域への拡大
米	○	○	○	○	○	...	新たに「重点戦略地域」化
日	○	○	○	○	○	...	事業開発拠点
中	○	○	○	○	○	...	市況回復期を慎重に見極め
亜	▲	○	*) ▲	○	○	...	「重点戦略地域」変わらず

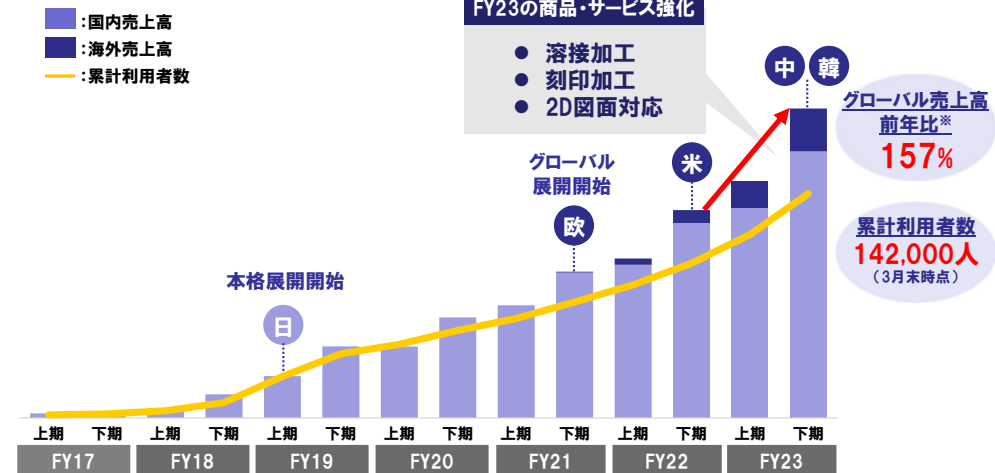
\*) 韓国を除く

## meivy の展開加速

日本の成長持続に加え海外売上比率15%に達し、グローバル成長加速  
成長メカニズムは「商品強化」\*「システムインテグレート」の継続強化

### グローバル売上高・累計利用者数推移

(売上: FY17上期=100指数)



※金型部品は20年度、ラビットプロトタイピングは23年4月でサービス終了

## meivy事業強化計画

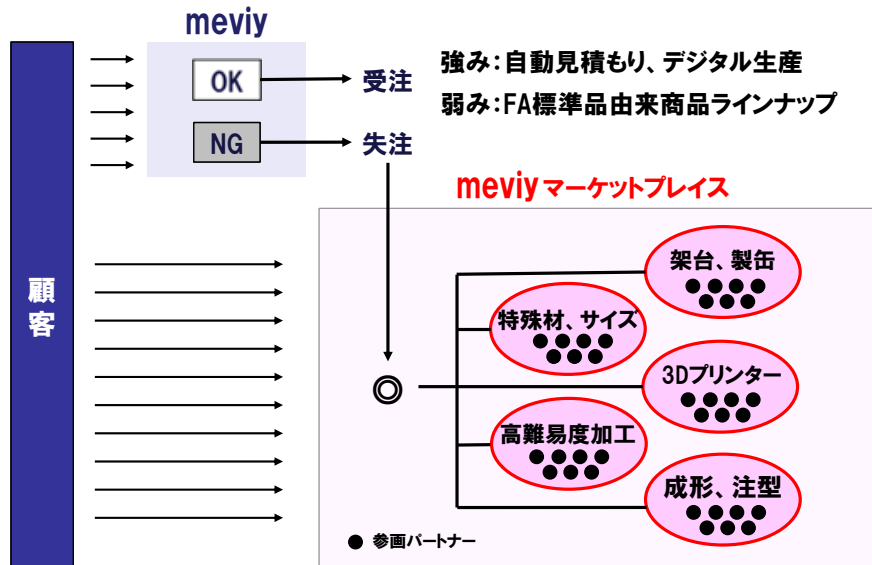
グローバル顧客の多様なニーズに適応する商品・システムを継続的に強化  
顧客対応幅を劇的に改善するmeivyの強みを活かした新たな取組みに着手

●: FY24上期展開予定 ○: FY24下期展開予定

FY24 取り組み		日	欧	米	中	韓
商品強化	溶接部品: 商品範囲拡大	●				
	角物: サイズ拡大(~2m)	○	○	○		
	環境対応(脱脂洗浄)	●	●	●		
	中国生産拡大	○	○	○		
	<b>商品領域一気拡大</b>	○	○	○	○	○
システムインテグレート	顧客内データ共有機能提供	●	●	●	●	●
	CADアドオンツールリリース	○				
	<b>マーケットプレイスモデル追加</b>	○				

## マーケットプレイスモデル(FY24.期中)

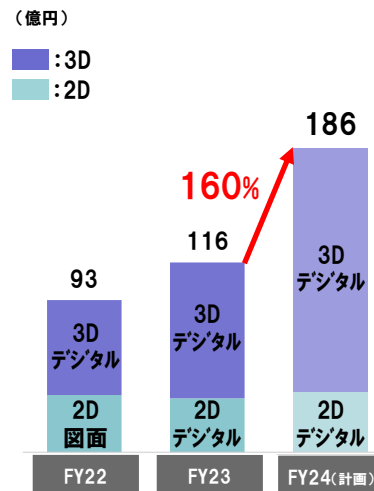
厳選した100社超パートナーとの協業であらゆる加工品の受注PFを目指す  
設備用部品のワンストップを目指しつつ、R&Dや試作等へも裾野を拡大



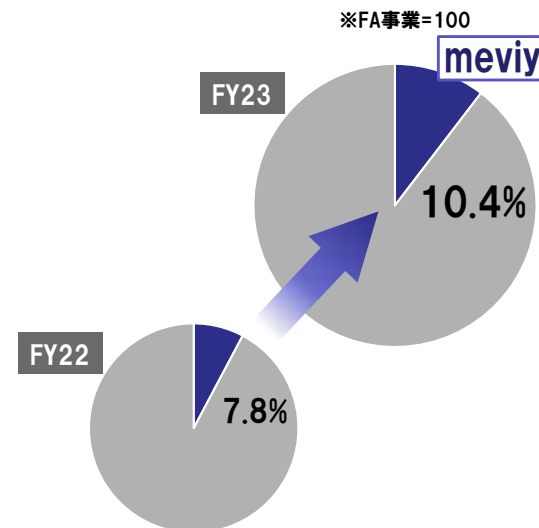
## 非標準品(特注)事業としての成長

昨年度開始の2D対応に既存図面事業も粗デジタル対応に推移  
FA事業における比率高まるも残存市場は膨大、今後も積極市場深堀継続

### 売上高の変遷



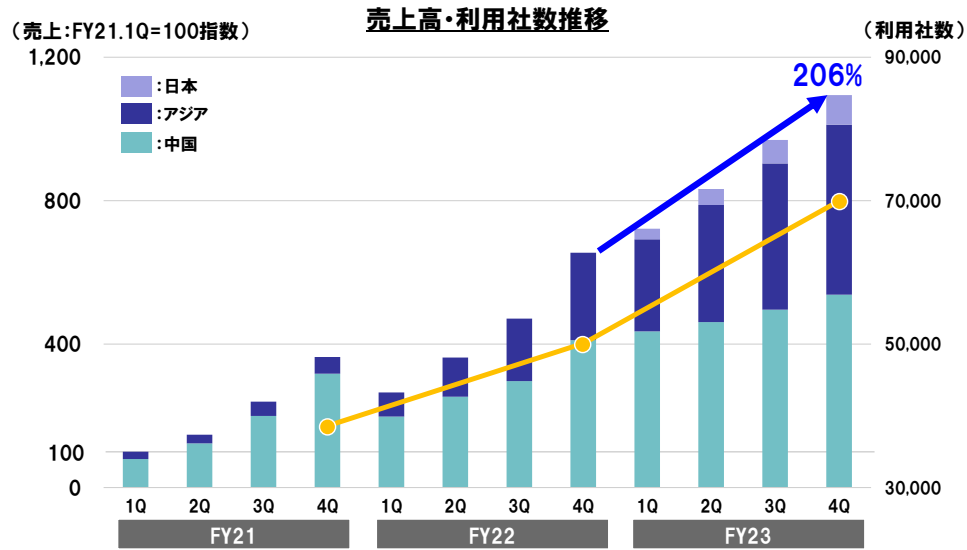
### FA事業におけるmeivy比率\*





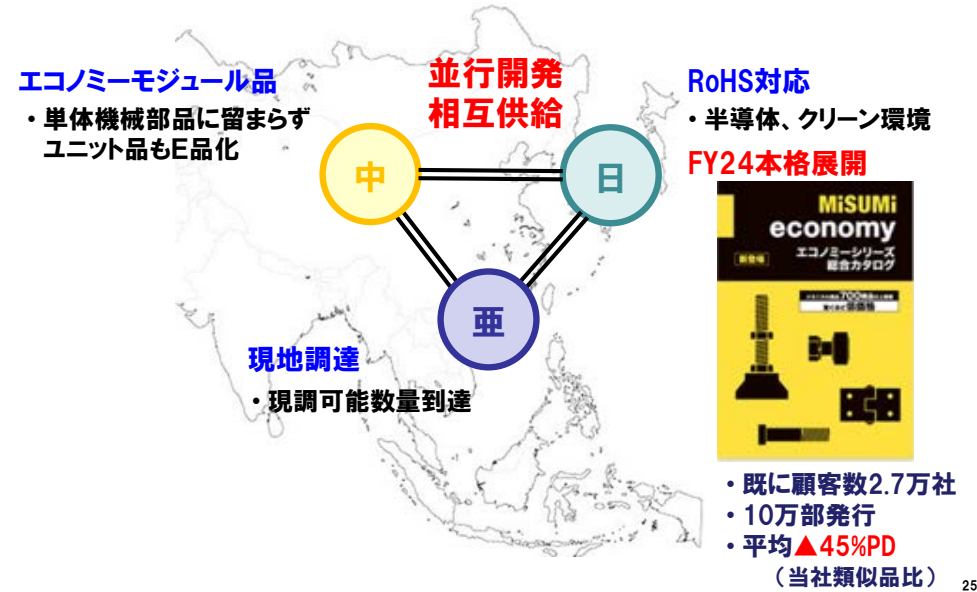
## エコミー品の浸透拡大

亜の売上成長が著しく、先行発売である中国以上の伸びを示す  
中・亜・日共に顧客拡大が進み、顧客数は7万社超(FY23)



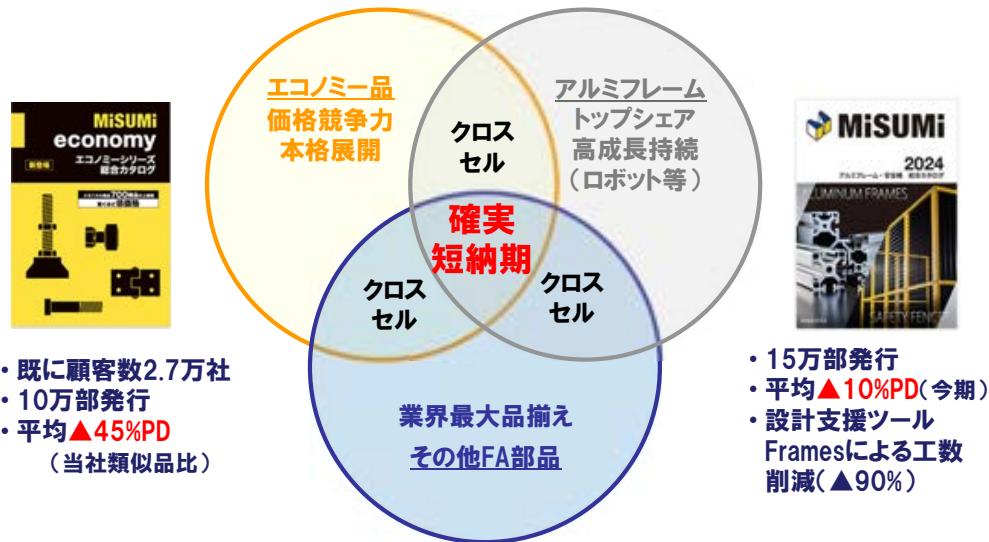
## エコミー品の地域毎対応強化

今迄の商品開発により基本部分の品揃えは充足、今後は差別化路線へ  
日・中・亜3地域の同時展開にて市場浸透スピードのギアアップを図る



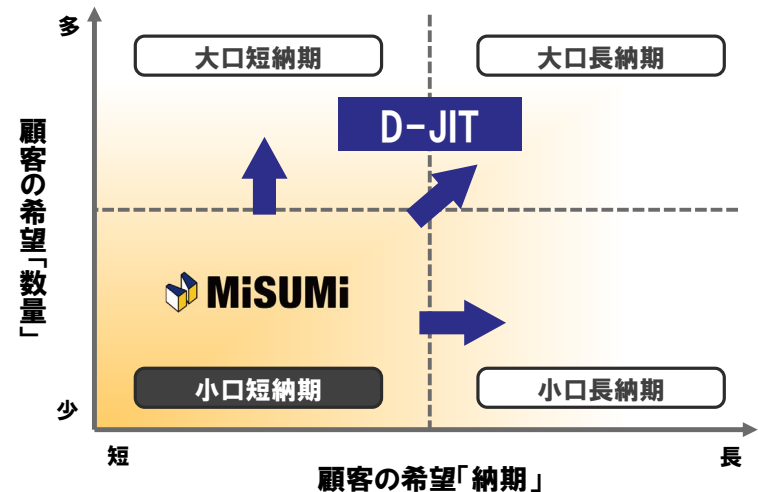
## 日本市場浸透加速

E品と最も親和性の高いアルミフレーム群を大幅増強、相乗効果を狙う  
その他FA商品も含めベースとなる競争力は确实短納期、今後も強化を図る



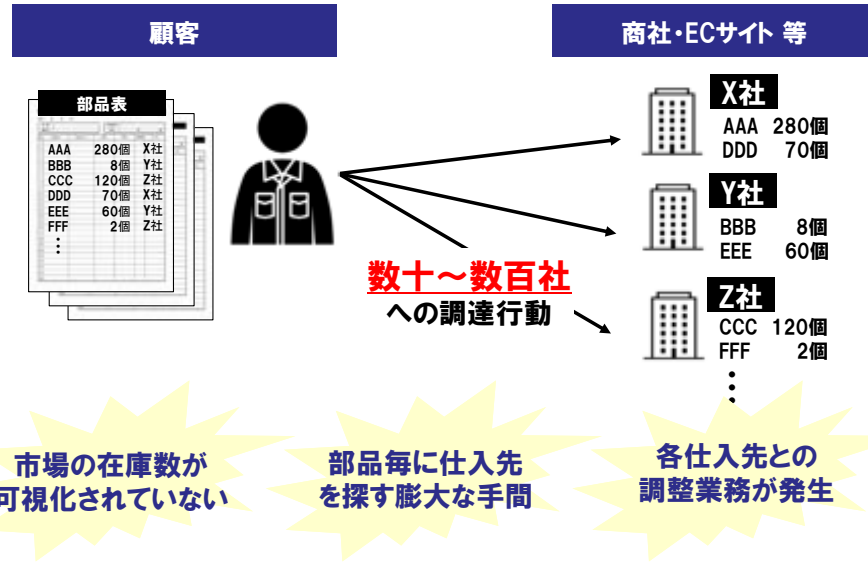
## 顧客調達プロセスの革新「D-JIT」

顧客希望数量に応えるべく「小口短納期のミスミ」から「大口でもミスミ」へ  
ITを活用した「動的」供給体制を構築し、日本からグローバルに拡大予定



## 大ロット調達時における顧客課題

供給プレイヤーは自社在庫でしか対応出来ず、顧客は必要数をかき集める  
その非効率を解消すべく、独自システムを構築し顧客のテマ削減に挑戦



## 紹介動画



<https://youtu.be/3PMt2U1WQQk?list=TLGGmc6gkMgRNHgyMzA1MjAyNA>

## D-JITのグローバル展開

既に半自動含め実装済みも新基幹システムNEWTONの導入で一層拡大  
グローバル在庫をリアルタイムで積算、「かき集め」の自動化にて顧客テマを削減  
全事業(メーカー事業、VONA事業、meviy、E品)に適応、确实短納期進化を図る



## 資本政策



## 資本政策

- 成長連鎖経営の実現に向けた中長期視点での成長投資を優先しつつ、株主還元充実とのバランスを従来以上に明確化
- 資本コスト以上の資本収益性として、エクイティ・スプレッド拡大を目指す

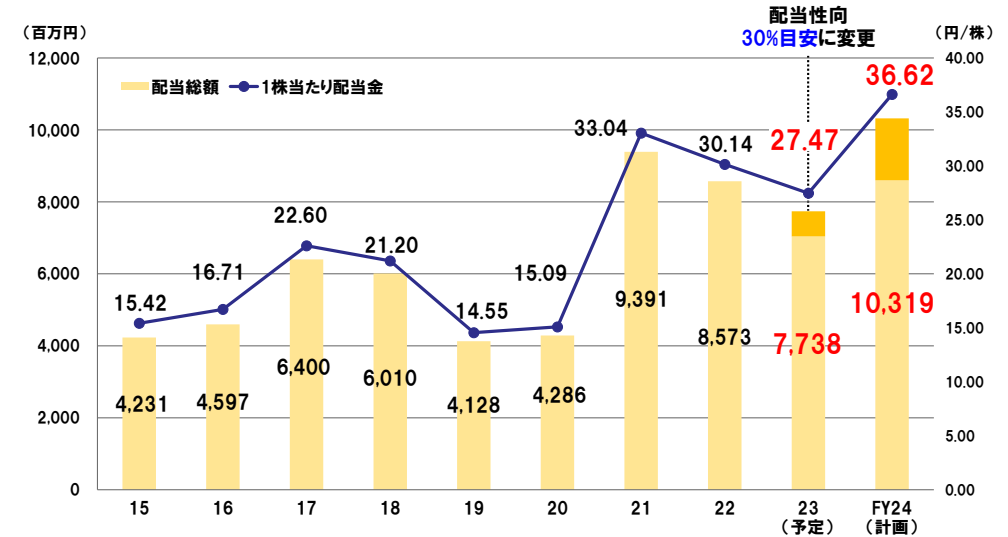
### <キャッシュ・アロケーション>

- 手元資金は、地政学リスク・経済危機等のBCP対応時にも、顧客供給責任を果たす必要資金を確保(半年分の事業活動資金 約1,000億円)
- 将来キャッシュフローは、オーガニック・インオーガニック成長へ再投資
- 残額は、成長投資と株主還元への機動的なアロケーション枠として、今回は配当性向30%への引上、自己株式200億円取得へ優先配分

32

## 株主還元

23年度は、通期27.47円の配当を実施予定(配当性向27.5%)  
 上期12.60円(前年比▲5.20円)、下期14.87円(前年比+2.53円)  
 24年度は、通期36.62円の配当を見込む(配当性向30%)



33

## 参考資料

## 為替レート・感応度

為替レート (対円)	FY23 実績	FY24 想定
	通期	通期
USDドル	144.4円	145.0円
ユーロ	156.8円	157.0円
人民元	20.1円	20.0円

	為替感応度	
	売上高	営業利益
影響額目安※	約20億円	約7億円

※全取引通貨が平均して1%変動した場合

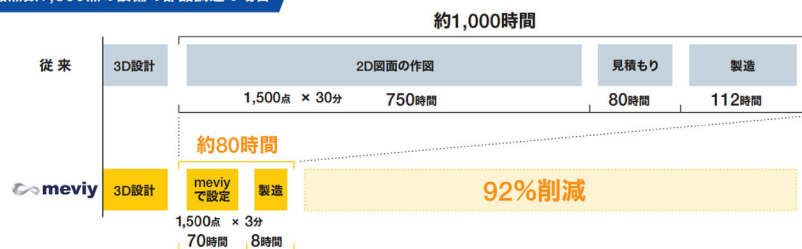
34

35

- 機械部品の3DデータをアップロードするだけでAIが自動で即時見積もり、独自のデジタル製造システムにより最短1日での出荷を実現するプラットフォーム(無料)



部品点数1,500点の設備の部品調達の場合



- 中国発、ミドルレンジ需要に向け新たに投入した価格競争力の高い商品シリーズ



既存品との比較

	既存品	エコミー品
精度 (内径公差)	-0.009~0	-0.012~+0.003 (ミドルレンジ精度)
価格指数	100	30~50

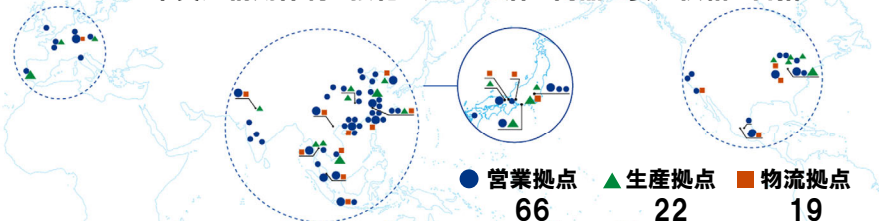
事業基盤

IT

- 持続的な成長に向けて積極的なIT投資を実施
- FY21から基幹システムの全面刷新を開始。新機能開発スピード3倍、開発コスト3分の1を目指す。4年間で計200億円規模の投資を予定

生産・物流

- グローバルで確実短納期体制を強化し、より一層の商品の安定供給を目指す



**生産** グローバル5極生産体制を構築。有事の際には、直ちに生産工場を切り替えることが可能

**物流** 自動化を導入したオペレーションをグローバル展開。生産性向上(質)と拠点拡張(量)の両輪で物流基盤強化